

A study of the unity of sports teams :
Development of a scale and examination of
related factors

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 快 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003223

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 ス甲第 22 号

A study of the unity of sports teams: Development of a scale and examination of related factors

(スポーツチームの一体感に関する研究：評価尺度の作成と関連要因の検討)

山田 快 (やまだ かい)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

Forsyth (2006, 2010) によれば、一体感は集団凝集性を構成する重要な要因である。しかし、これまでチームスポーツの一体感を質的、量的に評価した研究は行われていない。そこで、本研究では、スポーツチームの一体感を評価することのできる尺度を作成し (研究 I)、スポーツチームの一体感と他の要因との関連を検討する (研究 II) ことを目的とした。

研究 I では、13 の異なる競技から集められた 1,001 名の学生選手、平均年齢 17.88 歳を対象として、スポーツチームの一体感尺度 (以後、Unity Scale for Sports Teams : USST と略記) を作成した。尺度内の項目の選定は、以下の経過を通じて行った。はじめに、国内外から集団凝集性を測定する尺度を中心として、299 の質問項目を準備した。次に、筆者ら (スポーツ心理学の専門家 3 名およびスポーツ現場の指導者 1 名) が合議を通じて、「チームが 1 つにまとまっていると感ずること」という一体感の概念に適合し、且つコンセンサスの得られた 37 項目を抽出した。最後に、全ての項目を多様なスポーツチームで適応することができ、理解しやすいものにするために、37 項目の教示文の主語を「私たちのチームのメンバーは」または「私は」に統一し、体裁を整えた。

探索的因子分析の結果、USST は 2 因子構造・8 項目からなる尺度と見なすことが妥当であると判断された。これらの因子は、Forsyth (2006, 2010) が提示する集団凝集性の概念モデルに従い、「集団への統合」と「所属感」と名付けた。確認的因子分析では、高い適合度が示された。さらに、USST の十分な内的整合性と併存的妥当性、検査一再検査の安定性が認められた。

研究 II では、595 名の学生選手、平均年齢 18.47 歳を対象として、スポーツチームの一体感と 2 つの要因 (人的要因：性別・学校・競技種目・チーム内での役割、環境的要因：集団のサイズ) との関連を検討した。

その結果、USST 得点は高校生選手が大学生選手よりも高く、レギュラー・準レギュラー選手は非レギュラー選手よりも得点が高かった。また、USST 得点と集団のサイズとの間には、負の相関関係があることが認められた。

以上のことから、本研究では、最終的に以下の 3 つの結論が得られた。

- 1) USST は、多くのスポーツ現場でチームの一体感を評価するための有用性と汎用性を備え得る尺度である。
- 2) スポーツチームの一体感に関する認知は、学校段階およびチーム内での役割によって異なる。
- 3) スポーツチームの一体感と集団サイズとの間には、負の相関関係がある。